



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.309

2023/2/01

今月の一枚

今月のイベント

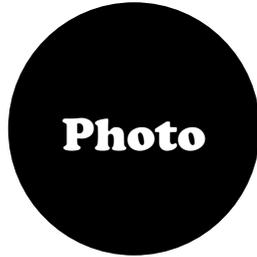
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 苦手を克服!?
02. 日の出、といえば



今月の一枚



「日の出を待つ人々」

表紙写真・文／松田真莉子

元旦の朝早く、初日の出を見ようと車で美幌峠へ向かいました。

初めて見る幻想的な雲海と、徐々に明るくなってゆく空のグラデーションの美しさに圧倒され、これが「天下の絶景」と呼ばれる所以か…！と非常に納得しました。

それにしても、元旦から多くの人で賑わっていた美幌峠。身近にこんなに素晴らしい景色がある美幌町の魅力を、もっと発信していきたいです。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月4日(土)～3月5日(日)

ロビー展「ひな祭りとひな人形」 2月11日(土)～3月3日(金)

プチ工房「影絵シアターをつくろう」 2月17日(金),18日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「影絵シアターを作ろう」

● 2/17(金),18(土) ① 10:00 開始, ② 14:00 開始, 所要時間 90 分 ※作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1階 講座室 ●参加費 300 円, マスク ●松田真莉子(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-2/16)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

2月の休館日

● ●
6日, 13日
20日, 24日
27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

苦手を 克服!?

写真・文／城坂結実



美幌博物館に勤め始めて、早いもので10数年が経ちました。植物担当の学芸員として、日頃から植物に関わる仕事をして「植物は全部好きです!」と胸を張って言えないのが現実。本音を言うと、日陰の地面を覆い尽くさんばかりにベタ〜ッと張りついているゼニゴケは、少し苦手です。

一昨年、講師に植物研究家の内田暁友さんを迎えて、美幌博物館講座「初心者からのコケ観察」を開催しました。参加者と一緒に、ループを片手に美幌博物館の周りで数種類のコケを観察していたら、薄暗い森の地面を覆うように…いました!ゼニゴケ。ところが、ゼニゴケというのは私の勘違いで、ジャゴケの仲間でした。ジャゴケは表面に蛇の鱗のような模様がある点で、ゼニゴケと区別できるそうです。

目出たくゼニゴケという疑いが晴れたジャゴケでしたが、ベタ〜ッと張り

ついている感じに変わりはありません。そんな中、内田さんから「ジャゴケは最近になって日本に4種類あることがわかり、その香りが種類を決める手がかりにもなる」と、好奇心をくすぐるような話を聞かされました。

こうなったら、嗅がずにはいられません。ジャゴケを手にとって鼻に近づけてみると、美味しそうな松茸の香りがしました。松茸の香りがするものは、マツタケジャゴケの可能性が高いそう。名前もさることながら、香りで種類が分かることに面白さを感じ、それ以来、ジャゴケの仲間を見つける度に、足を止めて香りを嗅ぐようになりました。

苦手は克服した、と思った昨年の秋。古梅地区の森で、大きなジャゴケの仲間(写真)を見つけて観察しているうちに寒気がしたのは、気のせいでしょうか。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

日の出、 といえば

写真・文／松田真莉子



今年最初のコラムは、「日の出」を描いた絵画のなかで最も有名な、クロード・モネの《印象・日の出》(1872年制作、マルモッタン・モネ美術館蔵)をご紹介します。なぜなら、19世紀後半にフランスで誕生した「印象派」の発端ともなった、美術史上とても重要な作品だからです。

当時、主流の絵画には、“主題が神話や宗教・歴史である”“室内で時間をかけて制作されている”“筆触を感じさせないほど、表面が滑らかに仕上げられている”などの特徴がありました。そんななか、モネを含めた若手画家のグループは、太陽の光の下で人々の暮らしや風景を描きました。彼らは屋外で制作することによって、刻一刻と変化する対象の移ろいを、キャンバスに収めようとしたのです。一瞬の表情を捉えるには、素早く一気に描き上げる必要があります。そのため、筆遣

いは大胆で躍動感^{あふ}溢れるものとなりました。また、混色によって彩度が失われることを防ぐために、色を並べて置くように描き、鮮やかな色彩で光を表現しました。

こうした試行錯誤を経て開かれた初のグループ展は、伝統的な絵画の規則からかけ離れた作品ばかりだったため、酷評されてしまいます。なかでも「描きかけの壁紙よりも未完成」などと非難の的となった、モネの《印象・日の出》^{やゆ}を揶揄して、グループは「印象派」と呼ばれるようになります。しかし、展覧会の回数を重ねるうちに支持者が増え、その色彩や筆さばきの自由さは、次世代の画家に計り知れない影響を与えていきました。

日本ではモネの連作《睡蓮》^{すいれん}の一部を収蔵する美術館が多いのですが、近代絵画の曙^{あけぼの}となった本作にも関心を持っていただけたら嬉しいです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

時々、愛犬が散歩の際にオナラをします。しかも、人とすれ違う時に！「私じゃないんです」と心の中でつぶやきつつ、もどかしい思いに駆られる瞬間です。(城坂)